



ウツサの保護者会

Top

ウツサの保護者会
会報 (バックナンバー)

ご意見
ご感想

Eテレ

毎週木曜日 夜10時25分～10時49分
毎週土曜日 昼12時～12時24分(再)



尾木ママこと
尾木直樹
(教育評論家)

会報「バック
ナンバー」

前回のわだい

次回のわだいは
「どう向き合う？
セクシュアル・マイノリティー
の子どもたち」



高山啓哉
アナウンサー



次回のわだい

どうする？子どものお手伝い

みんな聞いて～!

6歳の甥(おい)っ子は、3～4歳の頃は自然と食べ終わった食器を運んでくれたり、デザートを運んでくれたりしました。途中でお箸を落っこしたりしてても、私は「えーっ

つづきを見る

このわだいについて話したい

どう向き合う？セクシュアル・マイノリティーの子どもたち

9月10日(木) 夜10時25分～10時49分
9月12日(土) 昼12時00分～12時24分(再)

※12日の再放送は、福島県では別番組放送のためお休みの予定です。

セクシュアル・マイノリティーの子どもは、実はクラスに1～2人はいるほど身近な存在。しかし多くは人知れず悩み苦しんでいるという。彼らとの向き合い方を探る。

このわだいについて話したい

前回の放送

どうする？子どものお手伝い (アンコール)

9月3日(木) 夜10時25分～10時49分
9月5日(土) 昼12時00分～12時24分(再)

※5日の再放送は、愛知県・岐阜県・三重県・福島県・新潟県では別番組放送のためお休みの予定です。

今回のテーマは「子どものお手伝い」。多くの保護者がお手伝いは必要だと感じている一方で、「かえって面倒」などの悩み

この放送をシェア



このわだいについて話したい

ウワサの保護者会 第15回
「どう向き合う？セクシュアル・マイノリティーの子どもたち」



Eテレ 木曜日 夜 10時25分～10時49分
土曜日 昼 12時00分～12時24分(再)

- 高山 : あ、尾木ママ。体と心の性別に悩んでいるお子さんが結構多い。
尾木 : 身体的な性とね、心の性が一致しないっていうね、そういう人ですね。
高山 : セクマイっていうんですよね。セクシュアル・マイノリティー。
尾木 : セクシュアル・マイノリティーです。もともと人間の性っていうのは、例えば一億三千万人いたら一億三千通りあるわけよ。その原点に、今気づき始めてきたかなっていう段階ですね。
高山 : じゃあ、今日も始めましょう。
尾木 : よろしくお願ひします。

ウワサの保護者会！

今回のテーマは「どう向き合う！？セクシュアル・マイノリティーの子どもたち」



13人に1人。



(電通ダイバーシティ・ラボ 調べ)

これは、同性愛や、心と体の性が一致しない性同一性障害など、性的少数者、いわゆるセクシュアル・マイノリティーの数だ。

実は彼らは、小中学校のクラスに 1人か2人はいると考えられるほど、身近な存在なのだ。

しかし、彼らの多くがそのことを隠し、人知れず悩み苦しんでいるという。

文部科学省は今年4月、学校現場がすべてのセクシュアル・マイノリティーの子どもたちをきちんと支援するよう、全国の小中高校に通知を出した。具体的な事例だけでなく、教職員の研修や、医療機関との連携、相談体制の充実などの必要性が書かれている。

ウワサの保護者会 第15回
「どう向き合う？セクシュアル・マイノリティの子どもたち」



Eテレ 木曜日 夜 10時25分～10時49分
土曜日 昼 12時00分～12時24分(再)



「(セクシュアル・マイノリティの子が) 言い出せないってことが、一番大きいんですね。苦しいんだけどそれを言い出せないで、学校に行けなくなってしまったりとか、自殺を選んだりですね。(言い出せる) 雰囲気作りっていうのは、やっぱり学校の先生がしていくことだと思うんです。」

セクシュアル・マイノリティの子どもを受け入れることが求められている学校現場。
もしも子どものクラスにセクシュアル・マイノリティの子がいたら、あなたはどうしますか？

今回、スタジオには、セクシュアル・マイノリティのことを知りたいというホゴシャーズと、セクシュアル・マイノリティの子どもがいるホゴシャーズが参加！

【今回のホゴシャーズ】

- アルパカ (母) : 成人した子ども3名
- ルビー (母) : 長男・小4/長女・小1
- ヒスイ (母) : 長男・年長
- サンゴ (父) : 長男・年長
- みかん (母) : 長女・小5/次女・小3/三女・小1/四女・年中/五女・2歳
- ビオラ (母) : 長女・小4/次女・小1/長男・年少
- マンモス (父) : 長女・中3/長男・小5



ウワサの保護者会 第15回
「どう向き合う？セクシュアル・マイノリティーの子どもたち」



Eテレ 木曜日 夜 10時25分～10時49分
土曜日 昼 12時00分～12時24分 (再)

高山 : 13人に1人って、相当な数ですよ。マンモスさん。

マンモス : 今、私が働いている職場が50人いるので、3名4名はいるという。それは、正直感じないですよ。

高山 : ビオラさんは飲み友だから、「私、レズビアンなの」と告白をされたことがあるそうですね。

ビオラ : はい。周りにいなかったの、正直驚きましたね。

尾木 : たぶん、相当信頼されているから告白されたんですね。

高山 : それもあると思います。

尾木 : その驚きの気持ちが、わからないわけではないの。だいたい、いろいろな書類を見たって、男か女かってあるでしょ？その他の欄がないんだもん。だから、基本的に2つのパターンによって、社会全体が前提にしているものだから、矛盾も起きてくるのであって、多様な性という捉え方をすればなんの矛盾も起きないと思うのね。



高山 : みかんさんは、娘のことで悩んだ経験がある？

みかん : 長女がすごく男っぽくて、スカートとかもはかなくて、髪も短くて、見た目は本当に男の子なので、小学校に入るときに、いじめられたりするんじゃないかなって、ちょっと悩んだことはあります。

高山 : アルパカさんは一番下のお嬢さんがレズビアンだと打ち明けられた。

アルパカ : 今、26歳ですけど、20歳のときに「お母さん。実は、私が好きになる人は同性なんだよ」ってカミングアウトを受けまして。

高山 : そしてそのお隣ルビーさんです。小1のお子さんが、体は男の子で心が女の子なんですね。

ルビー : はい。小さいときから女の子っぽかったですね。



高山 :そして、こちらご夫婦でいらっしゃいます。体は男の子で心が女の子というお子さんがいらっしゃるんですが、お子さんとの暮らしというのがどうなっているのか、サンゴさんとヒスイさんのお宅の映像をご覧いただきたいと思います。

みっちゃん：お帰り～。

サンゴ：ただいま！

サンゴさんを出迎えてくれたのは、一人っ子のみっちゃん、5歳。幼稚園に通っている。

みっちゃんは、男の子として産声を上げた。でも、心は限りなく女の子。

1歳の頃から、きらきらしたものや、女の子向けのおもちゃが大好きだった。

服はワンピースやスカートを好み、髪の毛も、伸ばしているほうが好き。

みっちゃんは男の子ですか？女の子ですか？

みっちゃん：おんな！

来年、小学生になるみっちゃん。

この日は、待ちに待ったランドセルを買いに行く日だ。

ヒスイ：おじいちゃんは、何色のランドセルを買ったらいいって言ってた？

みっちゃん：黒。

ヒスイ：どう思った？

みっちゃん：さみしい…。

ヒスイ：さみしいのか。

祖父に、男の子として黒を選ぶべきだと言われたことが、ずっとみっちゃんの心に残っている。

でも、みっちゃんが選ぶのは・・・

みっちゃん：これ！みっちゃんの大好きな、フラワーとハートがきれいな…。

今では、みっちゃんが女の子でも男の子でも、みっちゃんらしくいてくれればよいと思えるようになったサンゴさん。でもそれまでは、苦悩と葛藤の連続だった。

サンゴ：男の子って普通に思っていたから、将来的には、キャッチボール、野球とか釣りに行ったりとか、イメージしていたところがあったので、いずれ戻るよ、戻るはずだよって自分に言い聞かせていたというか…。

でも、みっちゃんは、男の子らしい遊びに興味を示すことはなかった。

「くん」づけで呼ばれたり、「かっこいい服だね」などと男の子扱いされると、いつも泣いていた。

それでも、男の子として育ててほしいという気持ちを捨てきれなかったサンゴさん。

ミニカーや電車など、男の子向けのおもちゃを勧め続けた。

父がそんな態度をとるたびに、イヤな思いをしていたみっちゃん。

ある日、我慢の限界がきた。

ヒスイ：(サンゴさんが)「どの電車がいい？」って言った瞬間に泣き崩れて。

「もう、わかってください！みっちゃんは、かわいいものが好きだから！お願いします！」
って、泣き崩れたのが、もう衝撃というか…。

サンゴ：「違うんです！男の子じゃないんです！」みたいな感じで泣いたんですけどね。

本人は、相当イヤで、イヤで、ずっと我慢してたんやねって思ったら、悪いことしたなって…。

女の子らしい、かわいいものが大好き。そんなみっちゃんが大切にしている洋服がある。

お父さんが、初めてみっちゃんに買った、女の子用の洋服だ。

サンゴ：甲高い声で「ありがとう！」って言っていました。逆に、それを買ったおかげで、自分の中で吹っ切れたのかな。まあ、すごく喜んでいましたね。今も、着ていますけど。

一番のお気に入りですよ？

サンゴ：(一番のお気に入り) だったらいいですけどね。

尾木：よくワンピースを買ってあげようと思われましたね。

サンゴ：そうですね。うーん。

マンモス：やっぱり、男の子だったら、自分が子どものときにやったことをやろうみたいな、想像がつきやすくて、それが当たり前だと思うから。

高山：キャッチボールとか。

マンモス：うん。自分も戸惑うだろうなと思います。

高山：ルビーさんも、お子さんが小学1年生ですけど。

ルビー：我が家を見ているようです。主人のほうが、これは一時的な性の揺らぎじゃないかっていうように、捉えているので。

ウワサの保護者会 第15回
「どう向き合う？セクシュアル・マイノリティーの子どもたち」



Eテレ 木曜日 夜 10時25分～10時49分
土曜日 昼 12時00分～12時24分(再)

高山 : 例えば、どういうことを言われるのが多いですか？
ルビー : 「君」で呼んだり。
尾木 : ああ、呼び方ね。
みかん : うちの、ちょっと、主人がのんきななので。
高山 : のんき？
みかん : 長女がすごく男っぽくって「男の子の人生、生きたい」って言ったらどうするって言ったときに、「いいんじゃない」って、「それはそれで、いいんじゃない」って。主人と長女で男の子のゲームとかを一緒に楽しんでいます。
高山 : あ、ルビーさん食い入るように聞いていましたけど…。
ルビー : はい、羨ましいです。
尾木 : やっぱ、パパとママが認めてくれるっていうのは、最大の安定感になりますよね。居場所ですもんね。
ビオラ : 心と体が違うっていうのは、どれくらいから、なんとなくわかるものなんですか？
尾木 : 一般的に言えばね、気づくのは、小学校入学のときまでに気づくのが、だいたい60%ぐらいで圧倒的に多いんですよ。それから、いわゆる、恋愛感情が芽生えてくる思春期がまた一つの大きな山場で気づく時期ですね。



セクシュアル・マイノリティーの子どもたち。
教育現場ではどう対応しているのだろうか。

現在幼稚園、年長のみっちゃん。入園以来、幼稚園は様々な試行錯誤を重ねてきた。

先生 : おはよう みっちゃん。
お友だち : みっちゃん、サンダルはここに。イスの下。

1つは、呼び方。
みっちゃんは、名前を「くん」ではなく、「ちゃん」づけで呼んでほしいと希望し、幼稚園は受け入れた。



もうひとつは、服装。

みっちゃんが好きなスカートをはくことを認めている。

そして、トイレ。

男子用便器を使うか、個室を使うかは、みっちゃんに任せている。

周りの子たちも、みっちゃんが個室を使うことを当たり前を受け入れている。

また、幼稚園はクラス運営の在り方も見直した。

根本的に変わったのはグループを作るとき。

先生 : 「いちご」(グループ)さんがお手伝い。「なのはな」(グループ)さん給食。「にじいろ」(グループ)さん、歌・あいさつです。

みっちゃんに来る前は、男女別に分けていたグループ。

でも今は、男女別はやめ、「いちご」「なのはな」など子どもに自由に決めさせている。

先生たちも「男の子」「女の子」の特性を決めつけずに、1人1人をより丁寧に見つめ直せるようになったという。

先生 : その子とその子らしく生きていくためにどうしてあげたらいいかなって、一番根っこのところを改めて考えさせられるというか、きっかけになったことかなと思っています。

あと半年で小学生になるみっちゃん。幼稚園はみっちゃんが心配なく通えるよう、小学校の先生たちにこの秋から幼稚園でのノウハウを伝えていく予定だ。

高山 : 頼もしいですね。

尾木 : 素晴らしいね。

高山 : ここまで、しっかり配慮が行き届いていて。

ヒスイ : 本当は違う幼稚園に行くことになっていたんです。

サンゴ : 本人が「君」と言われるのはイヤだって言うんで、「呼び方をちょっと考えていただけませんか？」と。できれば「ちゃん」と言ってほしいと言ったら、「うちは、ピシッと分ける。そういう教育方針ですから、ちょっとそれは無理だと思います」と言われて。「それはどうしてですか？」って聞いたら、「他の子どもたちが混乱する」と…。

尾木 : 全然、混乱はしないんですよ。今のVTRの幼稚園の先生がおっしゃっていたように、30人、40人を、個別に見ていくんだと、なんの矛盾もないんです。日本の教育っていうのは、ピシッと分けちゃって、そこでの集団性を問うみたいな、スタイルなんですよ。こういうところを、どういうふうにして、“個別”にちゃんと目を注いでいくのか。性の問題もそうだし、学習の問題もそうだし、生活の問題もそうだし、相当の大転換を迫られている問題だと思いますね。

ウワサの保護者会 第15回

「どう向き合う？セクシュアル・マイノリティーの子どもたち」



Eテレ 木曜日 夜10時25分～10時49分
土曜日 昼12時00分～12時24分(再)

ヒスイ：「制服も好きなように選んでください、この子がいいようにしてください」って言うてくれて。

尾木：先生方も個別を見なきゃいけないということに気がついたわけでしょう。“個別を大事にする”って言うのは、教育の基本なんです。だから、その方針へ向かっている、あの園全体は、先生方の力量も付くし、他の子どもたちも、力のある心豊かな子どもになると思いますよ。

みかん：うちも、長女が幼稚園のときは、「お遊戯会」で男の子のほうに、1人だけ女の子で出させてもらえたので、そのときの先生にはとても感謝しました。長女は、そのことで「あ、いいんだ」って思えた気がします。「自分の意見言っているんだ」って、切り替えられた気がします。

アルパカ：それがきっかけだね。

ビオラ：みなさんが、そういう環境にいらっしゃるとは限らないじゃないですよ。だから、1人で抱えていらっしゃる方のほうが…

尾木：そういう方が圧倒的に多いです。

ビオラ：そうですね。私たちは、普通に知っておいたほうがいいと思うんですよ。ただ、どういうふうにかっちが接しているのかわかるという、すごい難しくなってくると思うんですよ。

ヒスイ：1人の保護者の方が、「そんなこと気にせんでいいよ。自分の友だちの子どもも、お姉ちゃんと弟で、お姉ちゃんの写真館について行ったら、弟がドレスを着たがって着て撮っていたし、気にせんでいい」って言い合ったんですよ。慰めの為に言ってくれはったんだと思うんですけど、なんかしっくりこなかったんですよ。

アルパカ：同情や慰めがほしいわけではないんですよ。

ヒスイ：そうなんです。別に、恥ずかしいわけでもないんで。

マンモス：うちの子どもの例でいうと、うちの子どもは病気を抱えていて、そういう話をすると、最初に返ってくるのはやっぱり同情なんです。だけど、同情されても治るわけではないし、彼女はそこを受け入れて自分なりに頑張っている。それが僕にとって当たり前になっているんで。1人1人お子さんは違うっていう、それだけっていうか。それで、いいのかな。正直言って僕は、そういう考えしかできないなとは思っています。

1人1人の子どもに寄り添う学校現場。その実現に取り組んできた 自治体がある。



これは7年前、かつて新座市内の中学校に通っていた、体は女性で心は男性のAさんの話。

自分の悩みを周りに言えない苦しさから、たびたび荒れるようになったAさん。

次第に学校を休みがちに・・・

心配した担任がその理由を訪ねると、Aさんは、女子の制服を着るのがイヤでならないと打ち明けた。



Aさん：なんで自分がスカートをはかなくちゃいけないんだって。周りの男の子たちははいていないのに、なんで自分だけはかなくちゃいけないんだろうっていうのは常にありました。

担任は、以前見たテレビドラマを思い出した。

それは、心と体の性が一致せずに悩む女子生徒の話だった。

「自分の周りにも同じ悩みを持つ子がいる。」驚いた担任は、早速そのことを他の先生に相談。

だが、先生たちの意見は対立した。

「男子の制服を認めてもよい」という先生と、「前例がない、特別扱いしすぎだ」と反対する先生に分かれた。さらに、「生徒が本当に悩んでいるのか、単にわがままで言っているのか、わからない」と悩む先生もいた。

担任は、Aさんが安心して学べる環境が重要だと訴え、対話を繰り返した。

その頃、Aさんは病院の精神科で、体と心の性が一致しないという診断書をもらい、学校に提出。

反対していた先生も納得したという。

一方、担任は生徒に、Aさんが悩みを抱えていることや、男子の制服で登校することを説明。

ネットにこの件を書きこまないように、とも伝えた。

さらに、保護者会でもAさんのことを話した。クラスメートやその親たちは、すんなりそのことを受け入れた。普段から男としてふるまうAさんの姿になじんでいたからだ。

こうしてAさんは、晴れて男子生徒の制服を着て、学校に通えるようになった。

充実した学校生活を送ることができたAさん。理解のある先生の他に、クラスの仲間の存在も大きかったという。



Aさん：特別扱いとかじゃなく1人の人として、お前はお前だして。男だから女だからじゃなくて、1人の人として見てくれたっていうのは、すごく大きいのかなって思いますね。

他にも、同じようなケースに対応してきた新座市。

4年前、専門家の協力も得てセクシュアル・マイノリティーの生徒に対応するためのマニュアルを作成した。

当時、そのマニュアルを作った教員の1人は・・・



一時期のごっこ遊びじゃないですけど、そういうものと、本当に悩んでいる子どもがいるという線引きが非常に私自身も理解が難しかったです。本人からの話もあるでしょうし、保護者からの話もあるでしょうし、また取り囲む友人からの話と、いろいろ聞いて、悩みの深さとか困り度をきちっと把握することが必要だと思います。

新座市では、23あるすべての小・中学校に多目的トイレを設けた。

セクシュアル・マイノリティーに関する先生の研修も行っている。

マニュアルも今回の文部科学省の通知を受けて改定する予定だ。

ウワサの保護者会 第15回

「どう向き合う？セクシュアル・マイノリティーの子どもたち」



Eテレ

木曜日 夜 10時25分～10時49分
土曜日 昼 12時00分～12時24分 (再)

高山 : 国が動いたことってというのは、後押しになりますよね。

尾木 : そうですね

ルビー : やっぱり通知があるっていうだけで、小学校に「こういうふうにしてほしい」という要望が通りやすいですね。

尾木 : そうですよ。

ルビー : はい、すごく通りやすいです。

高山 : 今はどうですか？通ってらっしゃる学校は？

ルビー : やっぱり、低年齢というところで、先生たちも、「(一時的な)性の揺らぎ」なんじゃないか」という、その疑いはぬぐえないですね。でも、いくら低年齢って言っても、意思はしっかりしているのです。

アルパカ : やっぱり、教える側の先生の勉強、保護者の勉強っていう、そこから始めてほしい。一緒にやっていくと、すごく変わっていくんじゃないかと思っています。

ルビーさんの子どもは女の子として学校に通っている。しかし、体は男の子。

その事実を、同級生や親にはまだ伝えていない。



ルビー : 同じ小学校に兄が通っているので、2人と話をしたときに、「言わないで」と言われて。

高山 : お母さんの気持ちとしてはどうなんですか？それでいいやっていうことなんですか？

ルビー : やっぱり、カミングアウトしていくっていうのが、最終形態というか、必要になってくることなのかなって思うんですね。まだ小学校の段階だと、カミングアウトせずにいけるかもしれないですけど、大きくなってくるとやっぱりカミングアウトする場面が必要にはなってくるかなって思います。

高山 : その、具体的なイメージはありますか？

ルビー : 中学入学のときですかね。

高山 : 中学あがる時に？

ルビー : はい。

ヒスイ : 難しいですよね。カミングアウトして、それを乗り越えられるかとか、重く受け止めてずっと考えるようになるのであれば、カミングアウトしなくて隠しても、それはそれでいいのかな…。でも、隠すのもすごくしんどいと思うので…。

ウワサの保護者会 第15回

「どう向き合う？セクシュアル・マイノリティーの子どもたち」



Eテレ

木曜日 夜 10時25分～10時49分
土曜日 昼 12時00分～12時24分 (再)

高山 : そうですね。

ヒスイ : 隠し通すっていうのも、すごく大変…。

尾木 : やっぱり、カミングアウトっていうのは相当慎重にやった方がいいと思います。ちゃんと先生たちや子どもたちに、十分理解が出来る状況になっているのかっていうこと、あるいはサポートしていく体制が整っているかということも。ないままでカミングアウトしちゃったら、大変ですから。まずは、そこの体制も整えていくこと。

アルパカ : やっぱり、よくするためのカミングアウトでないといけませんよね。

尾木 : そうそう。よりよくしていく。一か八かみたいなのは、危険です。

アルパカ : 小さなことですが、娘がカミングアウトしてから気をつけていることっていうのがありまして「彼女いるの?」「結婚しないの?」っていう言葉はやめたんですね。「パートナーはいるの?」とか、「好きな人はいるの?」という言葉で置き換えるようにしているんですね。やっぱり、言葉がけを気をつけていくことが、私は大事かなって思うんです。



ビオラ : やっぱり、自分の中では、何気なくでている言葉だから、わかりませんよね。

アルパカ : 先入観で、異性愛が当たり前だと思っているから。

マンモス : やはり、当たり前だと思っていることが、本当に当たり前なのかっていうところを疑って。当り前は、どんどん変わっていくんだみたいところが広まればいいかなと思いますけどね。

尾木 : やっぱり、セクマイの問題はね、完全に人権問題、人権教育なんです。家族とか、友人とか、地域の人とかね、誰でも関わりを持っているはずなの。だって、13人に1人でしょ。みんな関わりがあるはずなんだけど、それに気付かないだけで。気付かないのは、当事者がカミングアウトできない状況があるわけですから、すべての子どもたちが、やっぱり平等に扱われてその“個”をね、“個性”を大事にしていくとこまで、到達していくべきなんだっていうことをすごく思います。

みなさんの意見や体験談、

「ウワサの保護者会」番組ホームページまでお寄せください！

(終)